

金融機能強化法に基づき資本参加を行った金融機関における
「経営強化計画の履行状況（平成 23 年 3 月期）」の概要

金融機関名	資本参加	
	時 期	金 額
金融機能強化法（平成 20 年 12 月改正）に基づき資本参加を行った金融機関		
北洋銀行	21 年 3 月 31 日	1,000 億円
福邦銀行		60 億円
南日本銀行		150 億円
みちのく銀行	21 年 9 月 30 日	200 億円
きらやか銀行		200 億円
第三銀行		300 億円
山梨県民信用組合		450 億円
東和銀行	21 年 12 月 28 日	350 億円
高知銀行		150 億円
北都銀行	22 年 3 月 31 日	100 億円
宮崎太陽銀行		130 億円
金融機能強化法（平成 16 年 8 月施行）に基づき資本参加を行った金融機関		
紀陽銀行	18 年 11 月 13 日	315 億円
豊和銀行	18 年 12 月 18 日	90 億円

（注）山梨県民信用組合は全国信用協同組合連合会からの信託受益権の買取り、北都銀行はフィデアホールディングス（持株会社）が発行する優先株式の引受け、紀陽銀行は紀陽ホールディングス（持株会社）が発行する優先株式の引受けにより、それぞれ資本参加。

**改正金融機能強化法(平成20年12月施行)に基づく経営強化計画
平成23年3月期の履行状況の概要**

1. 経営改善の目標

1) コア業務純益 又は コア業務純益ROA (選択制)

(単位: 億円、%)

	計画初期 の水準	23年3月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)
		計画	実績			
北 洋	351	375	317	▲ 34	▲ 58	経費の削減に努めたものの、資金需要の低迷による貸出金の減少や貸出金利回の低下に加え、価格変動リスクの高い有価証券の売却による有価証券利息配当金の減少等から、コア業務純益は計画を下回った。
福 邦	0.26	0.40	0.35	+ 0.09	▲ 0.05	経費の削減に努めたものの、資金需要の低迷による貸出金の減少や貸出金利回の低下等から、コア業務純益ROAは計画を下回った。
南日本	29	44	38	+ 8	▲ 6	貸出金の平残は計画通りで推移したものの貸出金利回が低下したこと、金融商品販売が低調に推移したこと等から、コア業務純益は計画を下回った。
みちのく	54	59	60	+ 6	+ 1	資金利益が貸出金利息の減少等により計画を下回ったものの、消耗品費等の通常の費用等を中心に物件費の削減に努めたことから、コア業務純益は計画を上回った。
きらやか	53	54	45	▲ 8	▲ 9	経費の削減に努めたものの、資金需要の低迷による貸出金平残の伸び悩みや貸出金利回の低下により貸出金利息が計画を下回ったこと等から、コア業務純益は計画を下回った。
第 三	64	75	75	+ 11	+ 0	資金利益が貸出金利回の低下等により計画を下回ったものの、役員取引等利益が計画を上回ったことや、物件費を中心に経費の削減に努めたことから、コア業務純益は計画を上回った。
山梨県民 (信用組合)	21	33	24	+ 2	▲ 9	経費の削減に努めたものの、資金利益が貸出金利回の低下等により計画を下回ったことから、コア業務純益は計画を下回った。
東 和	56	87	95	+ 38	+ 7	資金利益が貸出金の増加や有価証券利息配当金の増加等により計画を上回ったことや、役員取引等利益が投資信託等の販売の増加等により計画を上回ったことから、コア業務純益は計画を上回った。
高 知	22	30	33	+ 11	+ 2	資金利益が資金需要の低迷や貸出金利回の低下等により計画を下回ったものの、物件費を中心に経費の削減に努めたことから、コア業務純益は計画を上回った。
北 都	28	34	37	+ 8	+ 3	資金利益が有価証券利回の上昇等により計画を上回ったことや、機械保守費等の経費の削減に努めたことから、コア業務純益は計画を上回った。
宮崎太陽	22	24	25	+ 2	+ 0	資金利益が貸出金及び有価証券の利回低下等により計画を下回ったものの、人件費や物件費の圧縮に努めたこと等により、コア業務純益は計画を上回った。

注) 福邦銀行は「コア業務純益ROA」を、その他の銀行は「コア業務純益」を選択

2) 業務粗利益経費率 (OHR)

(単位: %)

	計画始期の水準	23年3月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)
		計画	実績			
北 洋	74.39	51.49	55.72	▲ 18.67	+ 4.23	業務粗利益が資金利益の減少等により計画を下回ったことや、経費が減価償却費や業務委託費の増加により計画を上回ったことから、OHRは計画を上回った。
福 邦	77.87	64.80	64.39	▲ 13.48	▲ 0.41	業務粗利益が資金利益の減少等により計画を下回ったものの、人員の削減、店舗統合や遊休資産の売却、「カイゼン活動」等により経費の削減に努めたことから、OHRは計画を下回った
南日本	274.22	58.97	57.45	▲ 216.77	▲ 1.52	業務粗利益が国債等関係損益の改善等により計画を上回ったことから、OHRは計画を下回った。
みちのく	95.29	64.08	65.79	▲ 29.50	+ 1.71	通常の費用等を中心に物件費の削減に努めたものの、資金利益が計画を下回ったことを主因に業務粗利益が計画を下回ったことから、OHRは計画を上回った。
きらやか	65.21	60.14	61.59	▲ 3.62	+ 1.45	経費の削減に努めたものの、業務粗利益が貸出金利息の減少等により計画を下回ったことから、OHRは計画を上回った。
第 三	105.21	63.92	60.50	▲ 44.71	▲ 3.42	業務粗利益が資金利益の減少により計画を下回ったものの、物件費を中心に経費の削減に努めたことから、OHRは計画を下回った。
山梨県民 (信用組合)	71.65	51.33	58.21	▲ 13.44	+ 6.88	経費の削減に努めたものの、業務粗利益が資金利益の減少により計画を下回ったことから、OHRは計画を上回った。
東 和	71.23	73.23	69.60	▲ 1.63	▲ 3.63	業務粗利益が資金利益や役員取引等利益の増加等により計画を上回ったことから、OHRは計画を下回った。
高 知	65.40	69.50	63.63	▲ 1.77	▲ 5.87	業務粗利益が国債等債券関係損益の改善により計画を上回ったことや、物件費を中心に経費の削減に努めたことから、OHRは計画を下回った。
北 都	74.63	71.04	68.41	▲ 6.22	▲ 2.63	業務粗利益が資金利益の増加や国債等債券関係損益の改善により計画を上回ったことから、OHRは計画を下回った。
宮崎太陽	66.83	64.87	63.98	▲ 2.85	▲ 0.89	業務粗利益が国債等債券関係損益の改善等により計画を上回ったことや、適正人員の見直しや賞与の圧縮により人件費の削減に努めたこと等から、OHRは計画を下回った。

2. 中小企業金融の円滑化の目標

1) 中小企業向け貸出残高・比率

(単位: 億円、%)

	計画始期の水準	23年3月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)	
		計画	実績				
北 洋	残高	17,427	18,240	18,298	+ 870	+ 58	「コア法人」に対するソリューション機能提供の強化、新規事業所先の開拓、成長分野への融資推進(医療取引推進専担者の配置等)に取り組んだことから、貸出残高は計画を上回った。預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	24.25	25.03	24.79	+ 0.54	▲ 0.24	
福 邦	残高	1,639	1,681	1,585	▲ 54	▲ 95	新規企業の開拓やシェアアップ運動等に取り組んだものの、資金需要の低迷や緊急保証制度の利用先の一巡、償却等不良債権処理額の増加等により、貸出残高・比率ともに計画を下回った。
	比率	36.05	37.78	36.70	+ 0.65	▲ 1.08	
南日本	残高	2,435	2,649	2,724	+ 289	+ 75	緊急保証制度やGRDのスコアリングを活用した融資商品を活用し、地場産業に対し積極的に融資推進を行ったことから、貸出残高は計画を上回った。預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	37.45	40.04	39.84	+ 2.39	▲ 0.20	
みちのく	残高	4,168	4,252	4,188	+ 20	▲ 64	中核店等の法人営業担当者、営業部店長とブロック担当役員の連携により新規開拓や既存先の取引深化に取り組んだものの、資金需要の低迷等から貸出残高は計画を下回った。預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	22.78	23.00	21.61	▲ 1.17	▲ 1.39	
きらやか	残高	4,588	4,687	4,722	+ 134	+ 35	中小規模事業者全先訪問の実施や新規取引先の開拓等に取り組んだこと等から、貸出残高は計画を上回った。預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	40.26	40.40	39.01	▲ 1.25	▲ 1.39	
第 三	残高	5,595	5,749	5,786	+ 190	+ 36	担保・保証に過度に依存しない融資や「成長基盤分野応援ファンド」による融資、事業先担当者等による事業融資基盤の拡充等に取り組んだことから、貸出残高は計画を上回った。その他有価証券評価差額金や預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	32.48	32.52	32.20	▲ 0.28	▲ 0.32	
山梨県民 (信用組合)	残高	1,725	1,821	1,831	+ 106	+ 10	中小企業向け貸出増強運動や事業承継・事業再生のための融資に取り組んだことにより、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	38.21	38.63	40.89	+ 2.68	+ 2.26	
東 和	残高	5,292	5,474	5,623	+ 331	+ 149	営業店サポート体制の強化を図り顧客ニーズの把握や情報提供に取り組むとともに、担保・保証に過度に依存しない融資等により円滑な資金供給に積極的に取り組んだことから、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	30.82	31.11	31.62	+ 0.80	+ 0.51	
高 知	残高	3,437	3,497	3,510	+ 73	+ 13	業種別貸出の推進や営業部門人員の増強等に取り組んだことから、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	36.81	37.40	37.50	+ 0.69	+ 0.10	
北 都	残高	2,730	2,755	2,812	+ 82	+ 57	信用保証協会保証付融資や、法人推進エリアサポートチーム等による事業性融資基盤の拡充に積極的に取り組んだことから、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	23.76	23.84	24.08	+ 0.32	+ 0.24	
宮崎太陽	残高	2,074	2,103	2,146	+ 72	+ 43	事業先専担者による新規事業先開拓活動や既存事業先との関係強化等に取り組んだことから、貸出残高は計画を上回った。預金の増加により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	37.28	37.66	37.00	▲ 0.28	▲ 0.66	

2) 経営改善支援先割合

(単位:%)

	計画始期の水準	23年3月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)
		計画	実績			
北 洋	2.76	3.32	5.18	+ 2.42	+ 1.86	経営改善計画の策定支援、事業承継(M&A)支援、担保・保証に過度に依存しない融資(私募債、債権流動化等)等に取り組んだことから、計画を上回った。
福 邦	2.71	3.94	3.98	+ 1.27	+ 0.04	6,000先訪問運動により創業資金ニーズの発掘に努めたこと、経営革新・新連携等の公的制度の利用を推進したこと、事業承継支援に取り組んだことから、計画を上回った。
南日本	1.04	1.15	1.53	+ 0.49	+ 0.38	担保・保証に過度に依存しない融資商品(CRDのスコアリングを活用)や鹿児島県・市の創業支援制度の活用等による創業・新事業支援に取り組んだこと等から、計画を上回った。
みちのく	4.32	4.70	5.96	+ 1.64	+ 1.26	ビジネスマッチング等による販路拡大支援、制度融資等を活用した創業・新事業支援融資、専担部署による事業再生支援等に取り組んだことから、計画を上回った。
きらやか	3.41	3.68	5.95	+ 2.54	+ 2.27	経営改善計画の策定支援、企業価値創造グループによる各種コンサルティングやビジネスマッチング等に取り組んだことから、計画を上回った。
第 三	0.95	1.04	1.90	+ 0.95	+ 0.86	担保・保証に過度に依存しない融資(コベナント活用型融資、ABL等)、中小企業再生支援協議会と連携した事業再生支援等に取り組んだことから、計画を上回った。
山梨県民 (信用組合)	2.04	3.03	4.36	+ 2.32	+ 1.33	個社別取組方針の策定により経営改善指導の徹底に努めるとともに、担保・保証に過度に依存しない融資(売掛金見合い無担保融資)に取り組んだことから、計画を上回った。
東 和	3.07	4.65	4.95	+ 1.88	+ 0.30	担保・保証に過度に依存しない融資(ビジネスローン等)、制度融資を活用した創業・新事業支援融資、外部専門家等の紹介、経営相談会の開催など取引先企業に対する支援機能の強化に取り組んだことから、計画を上回った。
高 知	0.72	0.95	1.61	+ 0.89	+ 0.66	経営改善計画の策定支援、財務分析資料の活用による経営相談、ビジネスマッチング、信用保証協会の創業・新事業制度融資の積極的な活用に取り組んだことから、計画を上回った。
北 都	4.29	4.47	5.14	+ 0.85	+ 0.67	ビジネスマッチングによる本業支援や経営改善計画の策定支援、担保・保証に過度に依存しない融資(信用保証協会と提携したビジネスローン)に取り組んだことから、計画を上回った。
宮崎太陽	0.72	2.50	4.03	+ 3.31	+ 1.53	ビジネスマッチングによる本業支援、経営改善計画の策定支援、事業承継支援、担保・保証に過度に依存しない融資(個人事業者向けローン等)に取り組んだことから、計画を上回った。

旧金融機能強化法(平成16年8月施行)に基づく経営強化計画 平成23年3月期の履行状況の概要

1. 経営改善の目標

1) コア業務純益ROA

(単位:%)

	計画始期の水準	23年3月期		始期比	計画比	コメント (実績と計画の比較)
		計画	実績			
紀陽	0.65	0.61	0.46	▲ 0.19	▲ 0.15	コア業務純益が貸出金利回の低下等により計画を下回ったことや、預金の増加により総資産が計画を上回ったことから、コア業務純益ROAは計画を下回った。
豊和	0.69	0.69	0.61	▲ 0.08	▲ 0.08	コア業務純益が貸出金や有価証券の利回低下等により計画を下回ったことから、コア業務純益ROAは計画を下回った。

2) 業務粗利益経費率(OHR)

(単位:%)

紀陽	64.13	54.13	54.76	▲ 9.37	+ 0.63	経費が物件費の増加等により計画を上回ったことや、資金利益が計画を下回ったこと等により業務粗利益が計画を若干下回ったことから、OHRは計画を上回った。
豊和	49.20	51.67	52.72	+ 3.52	+ 1.05	業務粗利益は役務取引等利益及び国債等債券関係損益の改善により計画を上回ったものの、営業戦力の増強に伴う営業関連費用等の増加により、OHRは計画を上回った。

3) 不良債権比率

(単位:%)

紀陽	3.96	3.69	3.74	▲ 0.22	+ 0.05	経営改善支援によるランクアップや回収の進捗により開示債権額はほぼ計画値並であるが、総与信残高が計画を下回ったことから、不良債権比率は計画を上回った。
豊和	5.06	4.53	3.28	▲ 1.78	▲ 1.25	経営改善・企業再生支援によるランクアップや不良債権のオフバランス化に取り組んだことから、不良債権比率は計画を下回った。

2. 中小企業金融の円滑化の目標

1) 中小企業向け貸出残高・比率

(単位:億円、%)

紀陽	残高	10,658	11,060	11,111	+ 453	+ 51	支店長による取引先訪問、法人新規開拓室による新規取引先の獲得等に取り組んだことから、貸出残高は計画を上回った。預金の増加等により総資産が計画を上回り、貸出比率は計画を下回った。
	比率	30.63	30.63	29.53	▲ 1.10	▲ 1.10	
豊和	残高	1,738	1,811	2,085	+ 347	+ 274	営業体制の再構築(渉外戦力の増強、支店指導役による指導の継続実施等)の取り組みが功を奏し、貸出残高・比率ともに計画を上回った。
	比率	37.41	37.44	42.32	+ 4.91	+ 4.88	

2) 経営改善支援先割合

(単位:%)

紀陽	1.34	1.48	3.03	+ 1.69	+ 1.55	海外進出や人材確保等の経営支援、営業店との連携や外部機関の活用等による事業再生支援、医業の開業支援等に取り組んだことから、計画を上回った。
豊和	2.21	3.10	5.80	+ 3.59	+ 2.70	担保・保証に過度に依存しない融資(ビジネスローン)、県の制度融資等を活用した創業・新事業支援融資、経営改善計画の策定支援等に取り組んだことから、計画を上回った。